

過ぎ越しの聖なる三日間を生きる

主任司祭 吉池 好高

復活祭は、復活祭としてだけ祝われるのではありません。過ぎ越しの聖なる三日間の頂点として祝われるのです。復活祭があって、初めて、それに先立つ聖週間の三日間は過ぎ越しの聖なる三日間となるのです。聖木曜日の主の晩さんのミサは、最後の晩餐の記念であるだけではありません。最後の晩餐で主がなされたことと、残されたおことばは、聖金曜日に私たちが思い起こす十字架の受難によって主が私たちにもたらされたものを指し示しています。聖木曜日の典礼の終わりに、一切の装飾を取り払われてむき出しになった祭壇は、十字架の上にそのいのちのすべてを与えつくされ、墓に横たわる主のお姿を示しています。こうして、灰の水曜日以来、私たちの心を重く押しつぶしてきた、御後に従えとの、受難の主の招きは止むのです。十字架の道を進み行かれる主のもとに最後まで踏みとどまることが出来なかった弟子たちのように、主の御後に従うはずの私たちの信仰による生も、その只中で主の十字架と直面する時、砕け散るのです。私たちは、私たちの信仰によっては、私たちの現実の中の主の十字架のもとに踏みとどまることは出来ないのです。そのような私たちが、それでも、キリスト者であり続けることが出来るのは、十字架の死によってこの世の生を終えられた主が、復活されたことを告げる教会の信仰を受け入れることによって、洗礼の恵みをいただいたからです。

過ぎ越しの聖なる三日間の聖金曜日と聖土曜日との間は、単なる時間の経過なのではありません。創造のみわざの六日間と、その完成としての七日目の安息の日との間にあるような、全てを成し遂げられた、神の大いなる充足が漲り溢れているのです。聖土曜日の復活徹夜祭で私たちが手にするローソクの灯火は、主の過ぎ越しによってもたらされた、万物を更新する、神の新たないのちの光を象徴しています。こうして、私たちは、十字架の死を越えて復活された主の過ぎ越しを祝いつつ、私たち自身の過ぎ越しを体験するのです。主の過ぎ越しによって私たちの中に注ぎ込まれた、あらゆる挫折を乗り越えるに足る、原初のいのちを回復するのです。